てっぺんの葉っぱ

「失敗」の先に広がる未来

6年　Y・Aさん

誰でも失敗することはある。でも間違いに気付いたら、今度はしないように気を付ける。そうやって少しずつ大人になっていく。粕谷先生の教えに触れた瞬間、私の中に一つの思い出が蘇る。

二年生の頃、私は優しい両親に見守られ、幸せに暮らしていた。しかしそんな平穏な暮らしを、苦手とする算数のテストが吹き飛ばした。真っ赤なバツ印が並び、三十八点という答案用紙を前にして私の心臓が早鐘を打った。ショックを受けた私はこともあろうに帰り道で答案用紙をゴミ箱に捨ててしまう。

失敗の本質を見誤り、間違った行動を取ると、より大きな失敗に繋がっていく。ユリアも水を窓から捨てていいよ、と言った事実を隠し、マチの信頼を失った。

数日後、担任の先生から答案用紙の確認印について母に電話があった。両親に算数のテストはどこかと尋ねられた私は、「学校の机の中に忘れた。」と答えたが、子供のウソなど通用するはずもない。普段はめったに怒らない父に厳しく問い詰められ、涙で視界が歪む中、私はウソをつき通し、何時間も泣き続けた。今になれば分かるが、父が怒ったのは算数のテストで悪い点を取ったからではない。自分の本当の失敗に気付かず、ウソをついたからだ。間違いに気付かない泥棒はいつまでたっても泥棒のままだ。

そして怒ったまま父がリビングを出ていき、母と二人きりになった私は、涙をぽろぽろ流しながら本当のことを打ち明けた。話を聞いた母は私を膝の上に乗せ、そして言った。

「誰でも悪い点数を取ることはあるのよ。大事なのは何が悪かったのかちゃんと考えること。また次、頑張ればいいんだから。」

失敗したら、そこで勇気をもって立ち止まり、考えること。そして次に何をすべきか分かったら、素直に行動すること。自分の失敗を理解し、心から下山田先生に謝罪したマチの顔はこれまでよりいい顔になっていた。

次の日から私は別人のように算数の猛勉強を開始し、一ヶ月後には百点満点を取ることができた。その結果に私は喜び、家に帰るとすぐにその答案用紙を本棚の一番上に飾った。私が本当にやるべきだったことは答案用紙を隠すことではなく、努力という二文字だったのだ。

人生も草木染めもきれいな色にするのは簡単なことではない。思った色にならなくても、木や水の量を変えて何度も試行錯誤を繰り返す魔女ババの娘さんの姿が、本当の強い大人の姿だ。失敗を乗り越え、努力し続けた先にこそ明るい未来が待っていると信じて、私はこれからの人生を生きていきたい。